

次期総合計画策定に向けた
フィールドワーク in さがみはら
結果報告書

平成30年12月

相模原市

実施概要

1 目的

次期総合計画策定に当たり、本市の将来のまちづくりを担う若者の自由な発想により、まちづくりに関する新たな施策アイデアを提案してもらうことを目的とする。また、フィールドワークを通して、若者が本市を見て、知ってもらうことによる市への愛着、定住意識の醸成を図る。

フィールドワークや分析結果から検討された新たなアイデアや提案については、研究成果発表会を開催し、報告する場を設ける。

フィールドワークとは？

あるテーマに基づいて現地（研究室外）での見学観察及びヒアリング、アンケート調査などを行う調査活動。

2 調査研究テーマ

庁内から応募のあったものや企画政策課で提案したものから、以下のとおり4つのテーマを設定した。

テーマ一覧表

タイトル	分野	市担当課
緑区に点在する地域資源の発掘と効果的な情報発信に関する調査研究	緑区観光施策	緑区役所区政策課
将来を見据えた公共施設の在り方に関する調査研究	公共施設施策	経営監理課
ICTを活用したまちづくりに関する調査研究	ICT施策	情報政策課 文化振興課
子育てにやさしいまちづくりによる少子化対策に関する調査研究	子育て施策	こども・若者政策課

3 実施者

「さがまち学生 Club」に所属する 20 名の学生が実施した。学年や大学の内訳は以下のとおり。

参加大学生内訳

性別	女性 20 名
学年	大学 1 年生 4 名、大学 2 年生 6 名、大学 3 年生 8 名、 大学 4 年生 2 名
所属大学	青山学院大学、桜美林大学、相模女子大学、女子美術 大学、玉川大学、法政大学、目白大学

さがまち学生 Club とは？

さがまち学生 Club さがまちコンソーシアムが監修する「まちおこし学生団体。相模原・町田地域の大学生が在籍し、地域の活性化をテーマに、様々な主体と連携しまちおこし活動を企画・実施している。



4 実施期間

平成 30 年 6 月～平成 30 年 11 月

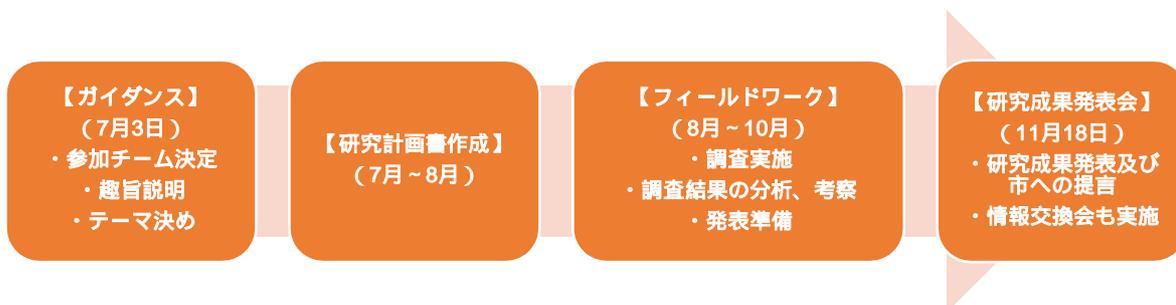
5 実施の流れ

(1) 市からのテーマ説明・グループ編成

各担当課からテーマに関する現状や、求める成果について説明を行い、質疑応答を行った後、テーマごとに 1 班 3～4 人のグループを編成。

- (2) 研究計画書作成
グループごとに、提案する施策の方向性やフィールドワーク先、スケジュール等をまとめた研究計画書を作成。
- (3) 研究計画書プレゼンテーション
作成した研究計画書について、各担当課に対し説明、プレゼンテーションを行い、今後の方向性などについてのアドバイスや意見交換を実施。
- (4) フィールドワーク実施
各チームそれぞれの研究計画書に沿ってフィールドワークを実施。
- (5) 中間報告
進捗状況などを各担当課へプレゼンテーションする報告会を開催し、今後の方向性などについてのアドバイスや意見交換を実施。
- (6) 研究成果発表会リハーサル
研究成果発表会の最終的なリハーサルを行い、発表に際するアドバイスや助言をし、発表内容の軌道修正を実施。
- (7) 研究成果発表会
これまでのフィールドワークの成果を発表する場として、「フィールドワーク in さがみはら 研究成果発表会」を開催。

「フィールドワーク in さがみはら」実施の流れ



フィールドワーク実施結果

1 市からのテーマ説明・グループ編成

(1) 実施日

平成30年7月3日(火) 19時～ 町田市生涯学習センター和室1

(2) 結果概要

市の各担当課から学生に向けてフィールドワークについての概要及び提供テーマ、求める成果等の説明を実施。質疑応答を行った後、学生たちは自分の興味のあるテーマを選定し、3人～4人のグループ編成を行った。

テーマ説明会の様子



2 研究計画書作成

(1) 実施日

平成30年7月～8月

(2) 結果概要

まず、フィールドワークを実施するにあたり、調査の目的や意義、提案する施策の方向性、フィールドワーク先、スケジュール等を記載した研究計画書を作成した。

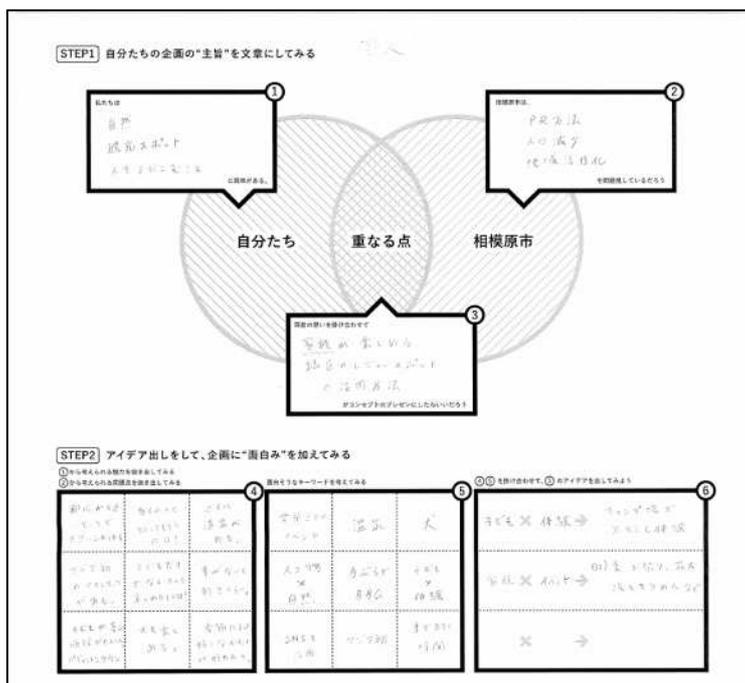
毎週火曜日に開催されている学生会議にて、付箋による意見の洗い出しやワークシートの作成などにより議論を行い、研究計画書を完成させた。

提出された研究計画書については、次ページのとおり。

付箋による意見の洗い出し



ワークシート例



研究計画策定

さがまち学生 Club フィールドワーク in さがみはら 研究計画書

研究テーマ	緑区に点在する地域資源の発掘と効果的な情報発信に関する調査研究
テーマの背景	<p>中山間地域を含む緑区においては、他区よりも少子高齢化や人口減少の進行が早く、人口減少に伴う諸課題が速いペースで顕在化することが考えられる（市まち・ひと・しごと創生総合戦略）</p> <p>このような中、市民生活の基盤となる地域コミュニティの維持・強化を図っていくためには、人口減少対策としての移住・定住促進の取組、とりわけ転出超過傾向が強い大学卒業世代や住宅購入世代に向けた取組みを効果的に進める必要がある。</p>
テーマについての要望	<p>相模原市の自然環境や地理的要件等の地域資源・特性を活かしたシティプロモーションを効果的に行い、移住・定住の促進や観光交流の拡大による地域活性化を図るため、大学生の若い発想、視点でフィールドワークを実施し、地域資源等の掘り起こしと魅力的な情報発信手法等について提案してもらいたい。</p> <p>またここで得られた提案を、2020年東京オリンピック・パラリンピック等の国際的なイベントを見据えたインバウンド対策としても活用したい。</p>
提案内容（仮定）	おいでよ若者！in 緑区(暫定)
本研究・提案の目的・意義	<p>（ターゲット）若者（特に大学生）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 緑区に実際に若者が訪れること ・ (緑区にとって)知名度があがる、観光客増加、まちの活性化
フィールドワーク先	相模湖畔、宮ヶ瀬湖（鳥居原ふれあいの館）、津久井湖 など
フィールドワーク内容（調査方法、収集したい情報、対象者、質問内容など）	<p>それぞれのフィールドワーク先で現地見学。</p> <p>出来ればそこで働いている人及び訪れている人へインタビュー。</p>
スケジュール	<p>7月～ 研究計画書作成 8月7日 研究計画書完成（市担当課へプレゼン）</p> <p>8月～9月 フィールドワーク日程</p> <p>9月15日（土）</p> <p>9月19日（水）</p> <p>9月～10月 発表準備</p> <p>11月18日 発表</p>

研究計画策定

さがまち学生 Club フィールドワーク in さがみはら 研究計画書

研究テーマ	将来を見据えた公共施設のあり方(公共施設の老朽化対策)に関する調査研究
テーマの背景	本市では、人口急増期である昭和40年代から昭和50年代にかけて、小学校や中学校、公民館などの多くの公共施設を整備してきたところである。これらの施設の老朽化が進行し、改修や更新に多額の費用が必要と見込まれる一方、人口減少や少子高齢化などによる社会保障費の増加や税収の減少など、財政状況は一層厳しさを増す中では、すべての公共施設を維持していくことは困難であり、市では、今後30年間で20%の延床面積削減が必要であると試算されている。こうした中、時代に過度な負担を残さず、将来にわたり真に必要な公共サービスを提供していくためにも、将来を見据えた公共施設のあり方を検討するとともに、施設の集約・複合化・長寿命化、既存ストックの活用、民間活力の活用など、多角的な視点で公共施設マネジメントの取組みを進める必要がある。
テーマについての要望	公共施設の整備は、将来への投資であり負担でもあるという考えのもと、次代を担う若者として、人口、財政、まちづくり、地域コミュニティなどの多角的な視点でフィールドワークを実施し、既存の枠にとらわれず、皆さんがこれからも住みたいまちと思える公共施設のあり方を提案してもらいたい。なおここで得られた提案は、今後の具体的な公共施設の再編や老朽化対策を考えていくうえでの参考にするとともに、実現可能なアイデアがあれば、積極的に実現に向けて取り入れていく。
提案内容(仮定)	既存の公共施設を若者が集まるようにリノベーションする政策
本研究・提案の目的・意義	(ターゲット)これから相模原市を引っ張っていくであろう若者 (目的)住民にとって愛着のある公共施設を活用しつつ、若者に相模原市を身近なものとして感じてもらうための政策 (意義)既に定住している若者にとっては、自分の住む相模原市に誇りが持てるようになる。相模原市にとっては、将来定住者が増える。相模原市の将来の担い手が生まれる。
フィールドワーク先	アーツ千代田 3331 市内の廃校小学校 若者が集まる場所(大学を想定)
フィールドワーク内容(調査方法、収集したい情報、対象者、質問内容など)	現地見学。担当者へのインタビュー。ターゲットである若者へのインタビュー
スケジュール	7月～ 研究計画書作成 8月7日 研究計画書完成(市担当課へプレゼン) 8月～9月 フィールドワーク実施。 9月～10月 発表準備 11月18日 発表

研究計画策定

さがまち学生 Club フィールドワーク in さがみはら 研究計画書

研究テーマ	ICT（情報通信技術）を活用したまちづくりに関する調査研究
テーマの背景	<p>国においては、「世界最先端IT 国家創造宣言・官民データ活用推進基本計画」が平成29年5月に制定され、今後、さらに国の行政部門のデジタル化を起点として、民間部門や地方の取組の拡がりへとつなげていくべく、IT 新戦略を策定するとしている。相模原市でも本市のICT 活用に関する新たな計画として「相模原市 ICT 活用推進計画」を平成29年3月に策定している。</p> <p>今後はICT を活用した様々なサービスの提供が考えられ、他市町村ではすでにIC カードを活用した高齢者の生活支援やWI-FI やクラウドを活用したICT 遊具を設置した公園、IC カードを利用した母子健康情報管理等が実施されている。</p> <p>こうしたICT を取り巻く環境の変化を的確にとらえ、現在、全国的に喫緊の課題となっている地方創生に関する取組の推進をはじめ、安全・安心の確保や子育て支援の充実など、地域社会における様々な課題に対応し、魅力的なまちづくりをするために、ICT 活用が必要不可欠である。</p>
テーマについての要望	ICT を活用した様々なサービスは、魅力的なシティプロモーションに繋がり、選ばれるまちを目指す本市にとって重要課題である。大学生の若い発想、視点でフィールドワークを実施し、ICT を活用した新たなサービスや魅力的なまちづくりについて提案してもらいたい。
提案内容（仮定）	相模原市の芸術分野を盛り上げる ICT サービス
本研究・提案の目的・意義	<p>（ターゲット）作り手（アーティスト）と受け手（主に若者）</p> <p>（目的）相模原市の芸術作品、アーティストについて知ってもらい、相模原市を訪れる若者が増えるため</p> <p>（意義）相模原市に積極的に行動する若者が多く集まる。そして街の知名度が向上する。作り手と受け手がICT を利用して繋がる。</p>
フィールドワーク先	アートラボはしもと 相模原市 ICT 関連課 若者が集まる場所（大学など）
フィールドワーク内容	見学。担当者へのヒアリング。若者へのヒアリング。
スケジュール	<p>7月～ 研究計画書作成 8月7日 研究計画書完成（市担当課へプレゼン）</p> <p>8月～9月 フィールドワーク日程 9月8日 アートラボはしもと、その他調整中</p> <p>9月～10月 発表準備 10月下旬 発表</p>

研究計画策定

さがまち学生 Club フィールドワーク in さがみはら 研究計画書

研究テーマ	子育てにやさしいまちづくりによる少子化対策に関する調査研究
テーマの背景	<p>国においては、平成27年4月から子育てを社会全体で支える仕組みとして『子ども・子育て支援新制度』が始まり、幼児期の学校教育や保育、地域の子育て支援の量の拡充や質の向上を図るための取組みを、市町村が実施主体となって進めることとしている。</p> <p>相模原市においても、次代のさがみはらを担う子どもたちの健やかな成長を支える取組みを計画的に進めるため、平成27年3月に「相模原市子ども・子育て支援事業計画」を策定し、平成28年2月に策定された「相模原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の中でも重点プロジェクトとして少子化対策があげられている。</p> <p>しかし、相模原市は合計特殊出生率が全国や神奈川県と比較して低く、人口置換水準との大きな差があることが課題としてあり、今後訪れることが予想される急激な人口減少に歯止めをかけ、魅力あるまちづくりをするために、安心して子育てができる環境を提供し、切れ目のない支援をすることが必要不可欠である。</p>
テーマについての要望	<p>育児に関連した充実した行政サービスは、魅力的なシティプロモーションに繋がり、選ばれるまちを目指す本市にとって重要課題である。</p> <p>これから結婚・出産・育児を控えている大学生ならではの発想、視点でフィールドワークを実施し、新たなサービスや制度、施策について提案してもらいたい。</p>
提案内容（仮定）	こども、未婚者、パパママが楽しめる施設をつくる政策（暫定）
本研究・提案の目的・意義	<p>（目的）相模原市の魅力を発信し、定住及び移住者を増やす。</p> <p>（意義）子育てに適している市と認識してもらう。</p> <p>結婚したくなる人が増える。子育てがしやすくなる。</p>
フィールドワーク先	相模原市子育て関連の担当課 親が集まる講座や保育園、または自分たちの母親など 子育て広場 など
フィールドワーク内容	担当課へのヒアリング。施設見学。パパママへのインタビュー。
スケジュール	<p>7月～ 研究計画書作成</p> <p>8月7日 研究計画書完成（市担当課へプレゼン）</p> <p>8月～9月 フィールドワーク日程 調整中。まずは担当課へヒアリング。</p> <p>9月～10月 発表準備 10月下旬 発表</p>

3 研究計画書プレゼンテーション

(1) 実施日

平成30年8月7日(火) 19時～ 町田市生涯学習センター和室1

(2) 結果概要

学生会議に市担当者9名が参加し、学生から作成した研究計画書の説明を行った。市担当者から学生に対して、今後の方向性などのアドバイスや研究計画書の内容について意見交換を行った後、各グループで内容の修正を行った。

<プレゼンテーションの様子>



4 フィールドワーク実施

(1) 実施日

平成30年8月～10月

(2) 結果概要

研究計画書に基づき、フィールドワークを実施した。各グループのフィールドワークの結果概要は次ページのとおり。

フィールドワーク先 「鳥居原ふれあいの館」

【概要】

宮ヶ瀬湖を臨む県立自然公園の景勝地「鳥居原園地」に隣接する農林産物直売所。地元の農林産物や加工品、工芸品の売りのほか、食堂などがある。

【フィールドワーク先に選定した理由】

- ・緑区の観光名所として市担当者からアドバイスがあり選定した。
- ・宮ヶ瀬湖のほとりに位置し、緑区の観光及び自然が体感できると考え調査を行った。

【調査結果・感想】

- ・車を持たない学生にとっては、公共交通機関（電車・バス）を利用しての訪問が困難であった。
- ・緑区の自然を体感できるスポットであったが、訪問当日は観光客が少なく寂しく感じた。
- ・地元住民にインタビューした際、「緑区には目玉がない」とおっしゃっていたのが印象的だった。
- ・そこで働く従業員さんにお話を伺った際、親切に対応いただき人の温かさを感じた。

< 鳥居原ふれあいの館 >



フィールドワーク先 「宮ヶ瀬ダム」

【概要】

愛川町半原と相模原市緑区青山、そして清川村宮ヶ瀬の3市町村にまたがる相模川水系中津川に建設されたコンクリートダム。

【フィールドワーク先に選定した理由】

・WEB 調査の結果、人工ダムとして全国有数規模のダムとの評価があったため、観光資源になり得るか調査を行った。

【調査結果・感想】

・車を持たない学生にとっては、公共交通機関（電車・バス）を利用しての訪問が困難であった。
・雄大な自然を感じたが、観光客が少なく、現地での観光に繋がる PR を感じなかった。

<宮ヶ瀬ダム>



フィールドワーク先 「相模湖（県立相模湖公園）」

【概要】

多目的ダムである相模ダムによって、相模川をせき止められて造られた人造湖。昭和39年の東京オリンピックではカヌー競技の会場として使用された。

【フィールドワーク先に選定した理由】

- ・地元住民より緑区の観光名所として薦められ選定した。
- ・WEBでもレトロゲームが揃ったゲームセンターやボートが出来る雄大な湖との評判があり、緑区の観光及び自然が体感できると考え調査を行った。

【調査結果・感想】

- ・車を持たない学生にとっては、公共交通機関を利用しての訪問が困難であった。
- ・緑区の自然を体感できるスポットであったが、観光客が少なく寂しく感じた。
- ・湖は雄大で整備されており、また湖畔には多数のボートが置ける管理棟などがあり、水上スポーツの需要があると感じた。

<相模湖>



フィールドワーク先 「アーツ千代田3331」

【概要】

東京都千代田区にある文化芸術施設。閉校した千代田区立練成中学校を改修。文化芸術に携わる様々な団体が入居し、活動している。

【フィールドワーク先に選定した理由】

- ・公共施設をリノベーションした先進事例として、フィールドワーク先に選定した。
- ・閉校した中学校をどのように再活用したかを体感するため調査を行った。

【調査結果・感想】

- ・教室や廊下、体育館などの作りを活かした運営を行っていて、建物をリノベーションするときに、リノベーションをする前の面影を残しておく工夫が必要であることが分かった。
- ・平日にもかかわらず、若いファミリー層などのお客さんもいたのが印象的だった。
- ・多くの芸術に関わる団体が運営しており、多種多様な拡がりを感じた。

<アーツ千代田3331>



フィールドワーク先 「CASICA」

【概要】

東京都江東区新木場にあるコンプレックス・スペース。倉庫をリノベーションした施設で、「生きた時間と空間を可視化する」をコンセプトに、ショップやギャラリー、カフェ、アトリエ、撮影スタジオなどを展開している。

【フィールドワーク先に選定した理由】

- ・公共施設をリノベーションした先進事例として、フィールドワーク先に選定した。
- ・倉庫をどのように再活用したかを体感するため調査を行った。

【調査結果・感想】

- ・倉庫が現代風のハイセンスなスペースに生まれ変わっていて、リノベーションの自由度の高さを改めて体感した。
- ・建物本来の素材を活かしつつ、機能を生まれ変わらせて永く使用することの意義を感じた。

< CASICA >



フィールドワーク先 「相模原市立図書館」

【概要】

相模原市中央区鹿沼台にある市立図書館。1974年に開館。

【フィールドワーク先に選定した理由】

- ・相模原市内公共施設の1事例として、フィールドワーク先に選定した。
- ・老朽化が問題視されている公共施設の実情を体感するため調査を行った。

【調査結果・感想】

- ・きれいに運用されていたが、壁や床などの傷が目立ち、施設の老朽化を目の当たりにした。
- ・平日にもかかわらず、多くの利用者があり、日ごろから地元住民に愛されていることが感じられた。

< 相模原市立図書館 >



フィールドワーク先 「相模原市立青少年学習センター」

【概要】

相模原市中央区矢部にある公共施設。青少年に交流と活動の場を提供し、青少年の健全な育成を図るための様々な事業を実施している。

【フィールドワーク先に選定した理由】

・相模原市内公共施設の1事例として、フィールドワーク先に選定。

【調査結果・感想】

- ・こちらもきれいに運用されていたが、壁や床などの傷が目立ち、施設の老朽化を目の当たりにした。
- ・節電の影響もあると思うが、全体的に少しくず暗かった。

<相模原市立青少年学習センター>



フィールドワーク先 「相武台公民館」

【概要】

相模原市南区新磯野にある市公共施設。旧磯野台小学校を改修。学習・文化・スポーツなどの活動を通じて、心のふれあいを深める場として活用されている。

【フィールドワーク先に選定した理由】

- ・相模原市内公共施設の1事例として、フィールドワーク先に選定した。
- ・当公民館は閉校した小学校を改修し建てられたと聞き、リノベーションの実態を体感するべく調査を行った。

【調査結果・感想】

- ・きれいにリノベーションされていたが、一般の公民館と変わらない構造で、ありきたりに感じた。
- ・こちらも節電の影響もあると思うが、全体的に少しうす暗かった。
- ・利用者は高齢者が多く、若者の利用が少ないと伺ったのが印象的だった。

< 相武台公民館 >



フィールドワーク先 「アートラボはしもと」

【概要】

相模原市緑区橋本にあるアート事業を展開する“アートの活動拠点”。美術系大学等との連携によるワークショップやまちづくり活動などを通じ、アートによる先進的・実験的な取り組みを行う。

【フィールドワーク先に選定した理由】

- ・芸術をテーマに調査を進めるにあたり、市内のアート施設を調査する必要があったため選定した。
- ・アートラボはしもとでは、地域の大学生が運営に参画しているという情報もありその部分についても参考になると思い調査を行った。

【調査結果・感想】

- ・JR橋本駅から徒歩で行ける距離で、またアリオ橋本に隣接しており、立地の良さを感じた。
- ・職員さんや運営をしている学生へのインタビューを通して、アートでまちを盛り上げようという意気込みを強く感じた。
- ・ただ当日はお客さんが少なく、せっかく芸術性の高い活動をしているのにもったいないと感じた。

<アートラボはしもと>



フィールドワーク先 「SUPER OPEN STUDIO (S.O.S)」

【概要】

アーティストのスタジオ（制作場所）をオープン（公開）することに主軸をおいたアート・プロジェクト。相模原市近郊の美術系大学の卒業生約 120 人で構成されている。

【フィールドワーク先に選定した理由】

- ・市内の芸術をテーマに調査を進めるにあたり、市内のアート活動を調査する必要があったため選定した。
- ・S.O.S は地域の美術系大学卒の若手アーティストが参画しているという情報もありその部分についても参考になると思い調査を行った。

【調査結果・感想】

- ・市内で活動するアーティストの想いを知ることができた。
- ・若手アーティストはより発信力を、より活動できる場を探しているということが分かった。

< SUPER OPEN STUDIO (S.O.S) >



フィールドワーク先 「緑のおうち」

【概要】

相模原市緑区橋本にある地域子育て支援拠点。親子が気軽に集まることが出来、情報交換や子育て相談が可能。市内には同様の子育て広場が4施設ある。

【フィールドワーク先に選定した理由】

- ・相模原市内の子育て支援施設の先進事例として、フィールドワーク先に選定した。
- ・子育て中の親や支援者へのインタビュー等を通して、子育て中の親がどのような悩みや不安を持っているかを調査した。

【調査結果・感想】

- ・普段交流することのない子育て世代のお母さんに子育ての話を聞いたことで、子育てには周りの人の協力が必要であると感じた。
- ・行政がする援助はお金だけではないと知った。
- ・緑のおうちは予約なしで気軽に利用出来ることが良い点だと思った。
- ・取材中「今はご近所付き合いが少ない」と言っていたのが印象的だった。子育ての悩みを共有できるコミュニティが少ないのかなと感じた。

< 緑のおうち >



5 中間報告会

(1) 実施日

平成30年10月9日(火)19時半～ 町田市生涯学習センター和室1

(2) 結果概要

学生会議に市担当者9名が参加し、現状の調査結果及び施策構想を報告した。市担当者から学生に対して、今後の方向性などのアドバイスや提案の内容について意見交換を行った後、施策構想の軌道修正を行った。

進捗報告の様子



6 研究成果発表会リハーサル

(1) 実施日

平成30年11月6日(火)19時半～ 町田市生涯学習センター和室1

(2) 結果概要

学生会議に市担当者10名が参加し、研究成果発表会の最終的なリハーサルを行った。発表に際する助言をもらい、内容の軌道修正を行った。

リハーサルの様子



研究成果発表会実施結果

1 研究成果発表会の概要

(1) 内容

各グループが約6か月間をかけてそれぞれのテーマについてフィールドワークを行い、その中で考えた新たな市の施策等のアイデアについて、参加者に向けて発表した。

また、発表終了後、全参加者を対象とした意見交換会（ポスターブースセッション）を開催した。

(2) 日時

平成30年11月18日（日）13時30分～16時

(3) 場所

相模女子大学夢をかなえるセンターガーデンホール

(4) 参加者

「さがまち学生 Club」所属大学生、市関係者、その他関係者、一般市民等計78名

2 タイムテーブル

当日のタイムテーブルは以下のとおり。

<タイムテーブル表>

時間	内容
13:00～	開場。受付開始
13:30～	開会。主催者あいさつ（下仲副市長）。発表会ガイダンス
13:55～	学生発表。子育てチーム、緑区観光チーム、公共施設チーム、ICTチームの順で発表した。発表時間は10分/1チーム。発表後、テーマ提供課の代表職員からフィードバックをもらった。
15:00～	下仲副市長から総評。
15:15～	意見交換会
15:45～	まとめ
16:00	閉会

< 準備や開会前の様子 >



3 運営

当日の司会及び受付・誘導など運営に際しては、全てさがまち学生 Club のメンバーが担当した。また、次のような工夫した取組を行った。

(1) いいね！カード

発表中に、提案された内容などに「いいね！」と感じたタイミングで参加者にカードをあげてもらった。場の一体感を演出することを目的とした。

< いいね！カード >



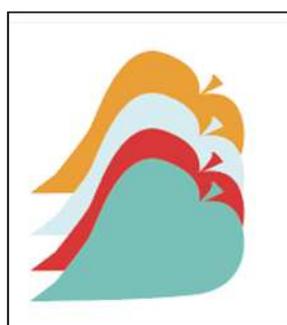
< 会場の様子 >



(2) 葉っぱ付箋

参加者から発表された内容に関する意見や感想を1枚の葉っぱを模した付箋に記入してもらい、それらを1枚の樹型の模造紙にまとめた。

< 葉っぱ付箋 >



< 木の模造紙 >



4 提案内容

各グループが提案内容のプレゼンテーションを行った。各グループの提案内容については次ページのとおり。(プレゼンテーション資料全編については、P 54を参照。)

< 発表会の様子 >

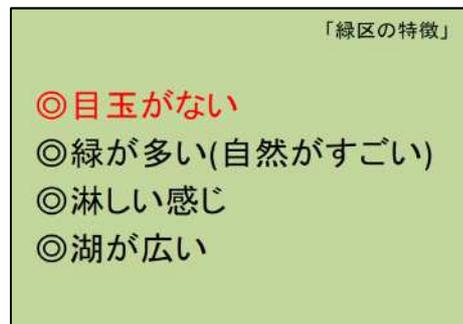


タイトル

観光客増加を目的とした地域資源の発掘・再発見
～ 緑区に目玉をつくる！～

フィールドワークに行ってみたこと

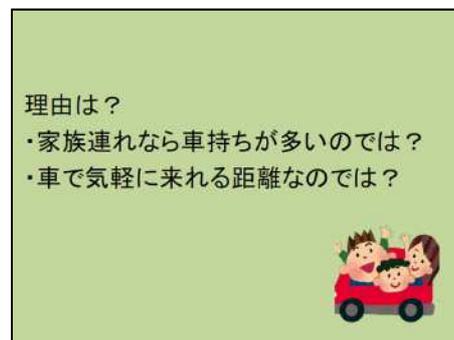
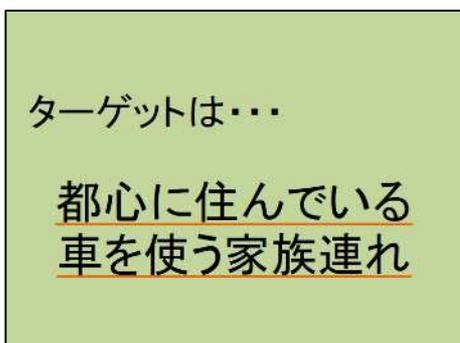
鳥居原ふれあいの館や相模湖公園などをフィールドワークし、また地域住民にお話を聞いて印象的だったのは「**せっかく緑区には様々な魅力があるのに、目玉になるような観光 PR ポイントがない**」ということでした。



ターゲット

フィールドワークでは公共交通機関(バス)を利用しましたが、1時間に1本のバスしかなく非常に大変な調査でした。しかし自家用車を持っている家庭では圏央道が開通したことにより、アクセスが一段と良くなったとヒアリング出来たのが収穫でした。

そこで私たちは、**本施策のターゲットを「都心に住んでいる車を使う家族連れ**」とし、緑区の特徴である雄大な自然(湖)が体感でき、また自家用車による交通アクセスの良さを活かした観光 PR 施策は何かを考えてみました。



提案内容

緑区×迷える町

小豆島では迷路のような街並みが観光スポットとなっています。相模原市で活動しているアーティストとコラボして町を迷路（アート）にすることで観光客増加を狙います。

また迷路の街並みでは、地域の食材を取り入れたご飯屋さんをつくることや、地域の特産品やそこでしか買えないお土産物などを取り揃えた店を展開します。



緑区×水上スポーツ×湖

ウェイクサーフィン、カヌー、SUP など年々世界的に水上スポーツの機運が高まっています。また相模湖は前回の東京オリンピックカヌー競技の開催地でもあったため、水上スポーツと所縁は深いです。

そこで相模原の湖で水上スポーツのイベントや運動会などを打ち出し、また競技に緑区の特産品である「丹沢あんぱん」や「ゆず」などを使用し、緑区のシティプロモーションへ繋がります。「フライボード×パン食い競争」、「SUP×玉入れ」、「ウォーターバルーン×玉転がし」など、色々な要素を組み合わせ、他地域にはない面白いイベントを企画することを考えています。



提案内容の効果

上記提案が実現すれば、相模原市の知名度がUPし、それにより観光客が増加し、最終的に地域活性化につながることを考えています。



タイトル

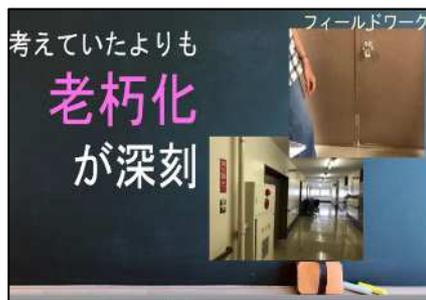
将来を見据えた公共施設のあり方

～楽しい場所を作って楽しいまちに～

フィールドワークに行って感じたこと

「アーツ千代田 3111」と「CASICA」をフィールドワークし、「**リノベーションの自由度の高さ**」を感じ、使用されていなかった施設を現代風にリノベーションすることで、**施設の再利用が出来ることの良さと、もともとある施設の機能をうまく再利用する良さ**を知ることが出来ました。

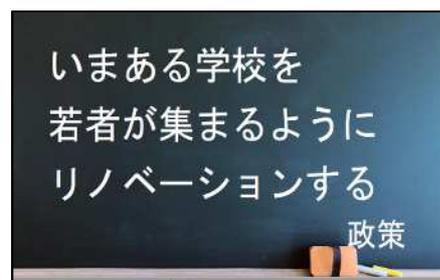
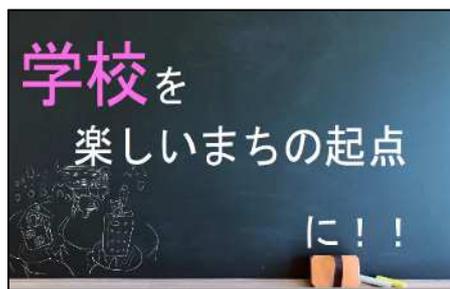
また、相模原市内の公共施設をフィールドワークし、**全体的に老朽化が進んでいるのを肌で感じました。また特に若者が利用しないという現状**も知ることが出来ました。



ターゲット

今後、少子化により廃校が増えていくことが予想されますが、学校には思い出がたくさん詰まっています。そんな大切な場所を有効的に活用するため、**施設のターゲットを「学校」と**しました。

また、今回のフィールドワークでは、相模原市内には若者が利用したい施設が少ないという声が聞かれたことから、**人のターゲットを「若者」とし**、住民にとって愛着のある学校を变身させ、若者に相模原の魅力・特色を感じてもらう施策は何かを考えてみました。



提案内容

アミューズメントパーク化

非日常を楽しみたい若者を呼び込むため、**廃校をアミューズメントパークにリノベーション**します。学校を民間企業に貸し出し、運営も任せます。

具体例は、今若者の間で流行している「**リアル脱出ゲーム**」や「**おぼけやしき**」を考えました。学校にある備品をリアル脱出ゲームの問題に活用することや、校舎全体を使った探索型おぼけやしきなど、学校ならではの特徴を活かしていくと面白くなると考えています。



サードプレイス（心地のよい場所）をつくる

サードプレイスとは「自宅」でも「職場」でもない第3の居場所です。若者が定期的に来られる居場所をつくるため、**廃校を若者の理想の部屋にリノベーション**します。運営は相模原市と地域の若者でします。

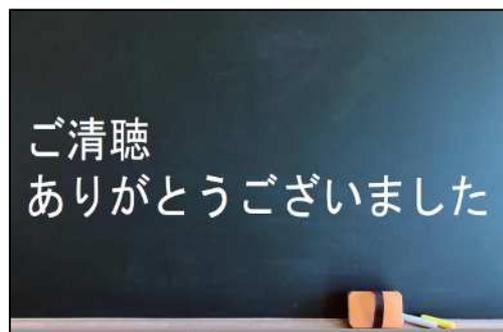
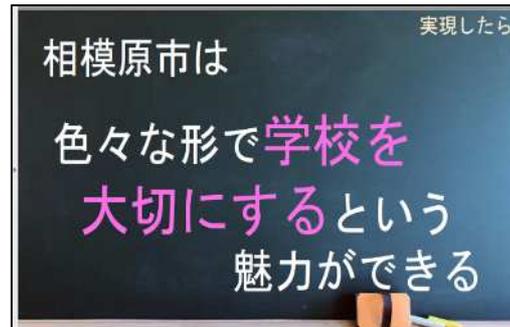
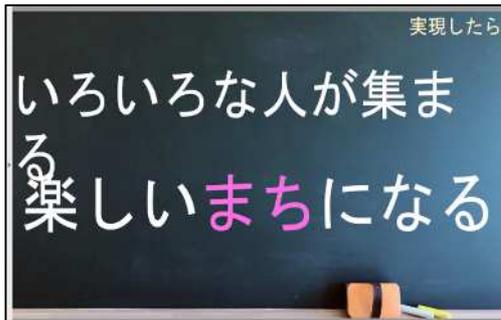
家のようにくつろげるスペースをイメージにリノベーションし、**ゲームや飲食が気軽にでき、一人でも大勢でも気にならない何回も行きたい**と思ってもらえるスペースにします。



提案内容の効果

上記提案が実現すれば、若者に相模原の魅力、特色を感じてもらい、色々な人が集まる楽しいまちになり、地域活性化へ繋がっていくと考えています。

また、相模原市は色々な形で学校を大切にするという魅力が出来ると思います。



タイトル

芸術×ICT で相模原市を盛り上げるサービス

フィールドワークに行って感じたこと

ICT に相模原市のどんな魅力を結び付けようかと考えた時に、相模原市はアートがあふれるまちと感じたことから、「芸術」に注目し、市内の芸術関連施設にフィールドワークを行いました。そこで分かったことは、相模原市には、**たくさん**のアーティストが活動していること、**周辺に芸術系・美術系の大学が多く**芸術活動が盛んなこと、**アーティストと直接触れ合うことができる**ことなどの強みがあることでした。

一方でヒアリングの中で、「**より多くの方に来てもらいたい**」「**情報をもっと周知したい**」「**お客さんの意見をもっと聞きたい**」「**活動拠点をもっと増やしたい**」「**芸術で市をもっと盛り上げたい**」などの意見も聞こえてきました。



ターゲット

相模原市を芸術の街として全国的に広めるためには、芸術を見る側と作る側の両者の面から施策を展開していく必要があると感じたため、**ターゲットを「観光客」と「アーティスト」と**しました。

観光客側からの視点で考えると「簡単にイベントや施設情報が届いたら良いな」、アーティスト側からの視点で考えると「お客さんの意見がもっと聞けたらいいな」といった要望が想定され、それら双方の要望を解決できるような ICT の活用方法は何かを考えてみました。

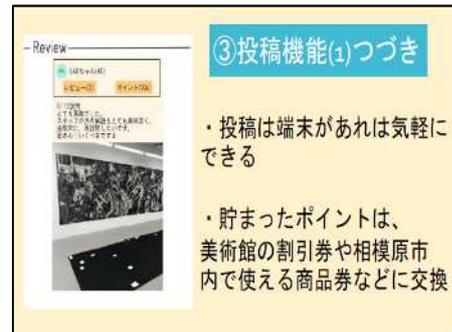


提案内容

アートマップ（携帯アプリ）

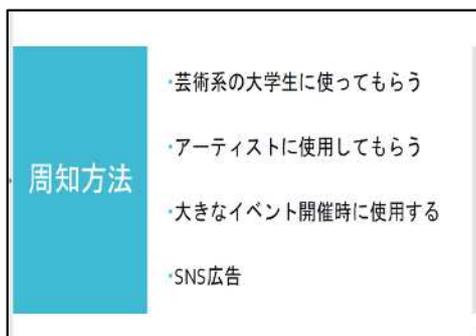
この携帯アプリは、相模原市内にある芸術作品の紹介、イベントやワークショップの告知、活動場の空き情報共有ができます。

具体的には、作品名・住所などから目当ての作品を検索し、地図上に所在地を表示させ、さらにクリックすると施設や作品の概要が表示される「**作品・施設サーチ機能**」、作品を見る側からの作品のレビューや作品写真の投稿、作品を作る側からのイベントや作品などの情報や告知の投稿、市や地域からの空きスタジオ・制作場所・展示場所の提供情報の投稿といった「**3つの視点からの投稿機能**」、その場で作品に携帯をかざすとメイキング映像やアーティストからのコメントを鑑賞できるといった「**位置情報機能**」を考えました。



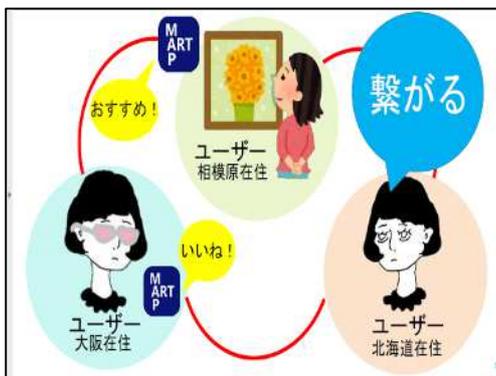
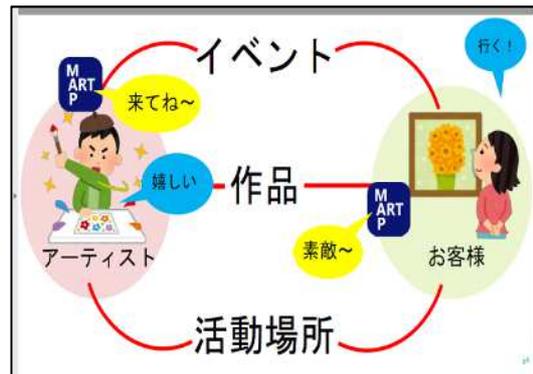
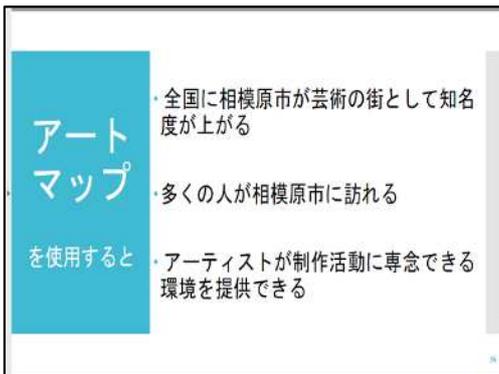
また、継続して使用してもらう工夫として、投稿者にはポイントを支給し、貯まったポイントを美術館の割引券や相模原市内で使える商品券などに交換できる仕組みも想定しています。

なお、アプリは、芸術系の大学生やアーティストに使ってもらうことや、大きなイベント開催時に使用すること、SNS 広告などで周知していきます。



提案内容の効果

上記提案が実現すれば、全国に相模原市が芸術の街として知名度が上がり、多くの人々が相模原市を訪れることとなります。また、アーティストが制作活動に専念できる環境を提供でき、**アーティストと観光客が winwin の関係になり**、地域活性化に繋がると考えます。



タイトル

親子で使えるコミュニティの場を複数つくる ～実家のような家～

フィールドワークに行って感じたこと

以前相模原市が実施した市民アンケートにおいて、子育てのために充実してほしいサービスで一番多かった意見は「普段、保育園を利用していない子どもでも、親の都合などで一時的に利用できる保育サービス」でした。そこで、私たちはそこから施策の根本を「一時的に利用できる保育サービス」とし、市の保育サービス施設である「子育て広場 緑のおうち」にフィールドワークを行いました。

そこでの調査で特に印象に残ったのが、「今はご近所付き合いが少なく、初めての子育てで何が分からないのが分からない」、「子育ての息抜きが欲しい」、「長い時間利用したい」、「子どもが徒歩で行きやすい近さにしてほしい」、「気軽に食事がしたい」という意見でした。

いいな！と思ったところ

- 見える範囲に子供がいる
- 子育てに関する情報が共有できる
- 事前予約なしで利用できる

「緑のおうち」利用者の声

- 初めての子育て、何が分からないのかがわからない
- 産む前は楽しみの方が大きかった
- イベントに行きづらい
- 子育ての息抜きが欲しい

...etc

ターゲット

産科診療の医師不足、核家族化、地域コミュニティの希薄化、共働き世代の増加により少子化が全国的に進んでおり、特に相模原市は合計特殊出生率も全国的に低くなっています。そこで、ターゲットを「3歳以下のお子様がいる親」とし、2人目3人目と子どもを育てたくなる街になるような施策は何かを考えてみました。

出産・子育ての課題

- 産科診療の医師不足
- 核家族化
- 地域コミュニティの希薄化
- 共働き世代の増加

本政策のターゲットは...

3歳以下のお子様がいる親



提案内容

実家のような家（親子で使えるコミュニティの場）

実家のように気軽に訪れることができ、気軽にお話ができ、気軽に相談でき、時間に追われずゆっくりすごせるコミュニティを相模原市に増やすことで、不安や情報を共有し、子育てに対してプラスに考えていける環境をつくります。

施設は年々増加している市内の空き家を借り、徒歩圏内で訪れることができるように、中学校と同じ規模約37箇所を設置します。運営は子育てを終えた世代と地域のおばあちゃんに任せ、色々な人の需要に答えるために24時間開放とします。

「実家のような家」のイメージ

- 和室
- 縁側と庭
- 子供はのびのび遊ぶ
- 親はくつろぐ
- 四季の行事を体験
- 思い出作り



実家風であることのメリット

- 気を遣わない
- 時間に追われずにゆっくり過ごせる
- 思い出が作れる



施設には、ツミキやブロック、絵本、お絵描きなどの様々な遊びができ、大人が常にいる「子ども用和室エリア」と、カーテンで区切られていて、布団で寝ることもでき、子育ての情報を集めた本を読めるといった「大人用和室エリア」、飲食自由で台所を隣接している「居間エリア」を用意することを考えています。

子供用和室

- ツミキ、ブロック遊び
- 絵本
- お絵描き
- 大人が常にいる



親用和室

- 布団で寝れる
- カーテンで区切られている
- 親向けや女性向けのイベント
 - ・ハーバリウム、大人のぬり絵
 - ・子どもの歯磨き
- 子育ての情報を集めた本棚



提案内容の効果

上記提案が実現すれば、子育ての不安や情報を親同士で共有でき、子育てに対してプラスに考えて行ける環境が作られ、安心して2人目、3人目を育てたくなる街に相模原市がなり、地元愛もうまれ、少子化対策につながると思います。



ご清聴ありがとうございました。

5 市からの講評

(1) 緑区観光施策

- ・アクセスが良い所を生かし、ターゲット層について、車を利用するファミリー層に絞ったことが良かった。
- ・小豆島の事例も非常に参考になった。マリンスポーツ×イベント、地産のパン、ゆずを使った運動会など斬新な発想だった。
- ・水源地域という特徴を前向きに捉えて、水上スポーツという若者向けの分かりやすい形で取り上げていてよかった。

(2) 公共施設施策

- ・よくある公共施設の統廃合ではなく、リノベーションで生まれ変わってもっと良い価値のものに変えていく、廃校をプラスに変えていくという発想が良かった。
- ・若者の発想で公共施設をどうしていくかを考えることが公共施設マネジメントの新しい流れを創っていけるような期待を持った。
- ・地域の学校のポテンシャルを良くとらえた素晴らしい発表だった。
- ・公共施設の建て替えではなく、機能、使い方を見直してリノベーションするという発想は、公共施設マネジメントの課題の本質を良くとらえていた。
- ・若者らしい自由な発想を持って発表され、提案に物語があった。

(3) ICT施策

- ・芸術とICTの組合せが斬新だった。
- ・アーティストと観光客を結ぶアプリはかなり具体性が高い内容であった。
- ・市のICT政策ではどうしても業務の効率化省略化を考えがちだが、今回の学生提案は芸術を広めるツール、地域活性化をにらんでおり素晴らしいと思った。
- ・観光客とアーティストをつなげるという発想は若い方ならではで、コンセプトも明確であり、機能面も明確で具体的な提案だった。

(4) 子育て施策

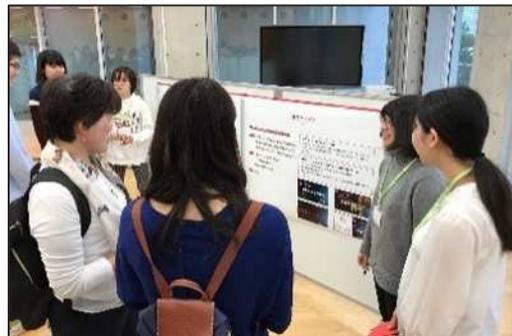
- ・市としては経済的支援に偏りがちだが、今回提案の親のコミュニティづくり「実家のような家」は、空き家対策や市民の協働施策など様々な要素を組み合わせておりとても良かった。
- ・市外から人を呼び込んでいきたい中で、市内に実家がない方も多い。そのなかで実家のような家が身近にある安心感が得られると思った。
- ・空き家の活用をプラスに活用するアイデアが良かった。
- ・24時間開放のアイデアが良かった。

6 意見交換会

各グループが提案したプレゼンテーションの内容について、参加者を交えての意見交換会を実施し、発表に対する意見や感想等を学生と参加者で共有を行った。

また、参加者には、意見や感想を1枚の葉っぱを模した付箋に記入してもらい、それらを1枚の樹型の模造紙にまとめた。葉っぱ付箋で参加者から出た意見は次ページのとおり。

< 意見交換会の様子 >



< 葉っぱ付箋アートの様子 >



<迷路施策について>

- ・とてもすてきな発想です！！迷える町ってとてもよいネーミングですね。
- ・小豆島と相模湖と運動会という異なる要素を組み合わせた新しい発想だった。
- ・迷路はエリアが広いので地区ごとのコンセプトを上手く出せるとより良いものになりそうです！
- ・小豆島のように食や特産品を活かしたまちづくりも実現すれば観光客に選ばれる緑区になると思います。
- ・緑区に迷路となるような路地があるか...相模湖の水質改善はどうするのか...など課題もあると思いますが、徒歩をベースとした観光と地元食材を食べられるところはとても良いアイデアだと思います。

<水上スポーツ施策について>

- ・運動会やりましょう！
- ・地場産食材と特産品いいね！
- ・相模湖を有効活用していくのは良い。
- ・SUPで玉入れ、やってみたいです！
- ・湖面活用がユニークでした。実現したらスゴイ
- ・湖で水上スポーツやってみたい！
- ・水上スポーツ運動会を是非実現してほしい。そして私が五輪に出て金メダルを獲りたい！！
- ・空中に飛び上がりながら「パン食い競争」ってのは、斬新！大人には思いつきません。
- ・丹沢あんぱんのパン食い競争はとても難しそう！でもすごく面白そうですね。話題性って大事だと思います。
- ・水上スポーツと運動会のコラボは大変面白かったです！（フライボートとパン食い競争はインパクト絶大でした。）
- ・“特産品”を競技に使うアイデアは最高デス！
- ・水上スポーツ×名産品のあんぱんというぶっとんだ発想好きすぎる。
- ・湖と水上スポーツへの着眼が素晴らしいと思いました。学生のみなさん自身が感じた緑区の良い所、悪い所を聞いてみたいです。
- ・湖で水上スポーツという柔軟な発想が素晴らしいです。日にちや曜日を限定してイベントを実施するだけでも、若者や競技者が集まり今までと違うにぎわいがうまれそうです。
- ・新たなアイデアとして湖とレクリエーションスポーツのコラボは面白い。さらに、地域の人材、特産品の活用にもつながっていると思います。

- ・湖でのパン食い競争、見てみたいです！実現したら、取材などがきて、知名度も上がると思います。
- ・アーティストの活用は大事な視点で良かった。湖×スポーツは河川管理者との調整などのハードルはあるが、とても面白い取組だと感じた。
- ・相模湖で実施する水上スポーツと運動会をコラボレーションして、これまでにない競技をきっかけに知名度増につなげる視点はおもしろいと感じました。
- ・スポーツイベントを行うのは集客が見込め良いと思う。小学校の運動会にかけ合わせるアイデアは、昔を懐かしむ大人を魅了すると思う。
- ・水上スキーと地元名産品のコラボは現状一番実現できそう。受け入れ側はどうなのだろう。
- ・地域の特産品を利用したスポーツ大会や湖の活用は、とてもおもしろいアイデアだと思います。
- ・相模湖がウォータースポーツの場になったら素敵だなと思いました。その為に湖水の浄化が必要かな？！

<ターゲットについて>

- ・車でのアクセスの良さを活かし、地域をからめて盛り上げていく。
- ・宿泊施設を誘致し、長期滞在できるリゾートタウンに再編してほしい。
- ・車で行きやすい(駐車場が広いなど)の配慮がされている目玉スポットができると良い。
- ・知名度UP地域活性化に向けて、ターゲットをしぼる視点がよかった。自然をベースにして活用方法はまだまだありそうな気がした。
- ・ターゲット選定が適切と感じた。迷路のまちは藤野町にぴったりと思った。湖の分析が良い。水上スポーツやってみたい！
- ・緑区に目玉を作るかについて提案が良かったです。高速道路からのアクセスの良さを活かして観光客を呼びこもうというアイデアも面白かったです。
- ・毎年山中湖でホバーボードをやっていますが、所沢や横浜から来ている人がいるので充分誘客は見込めると思います。運動会のアイデアはとてもいいと思います。

<施策についての提案・意見>

- ・宿泊をのばす仕組みをもっと考える必要があると感じました。
- ・相模原市緑区の知らない所を多く発見できる発表でした。
- ・具体的な活性化案がオモシロイ！！
- ・くりかえしきてもらえる工夫やしかけも大切ですネ！

- ・多様な視点から考えられたアイデアでとても楽しい政策だと感じた。
- ・迷路のような面白い 道がせまい 都心からの車は遊びに来にくいかも。
- ・迷路、ウォータースポーツと名産品の運動会など斬新でおもしろいアイデアがいっぱいでした！是非実現を！
- ・藤野町のアート集村は“迷路のまち”に使えるでしょうか？プレジャーフォレストはうまくいってるでしょうか？
- ・相模湖にある「Amille」というカフェはまだあるかなあちょっとおもしろいお店デス！
- ・迷えるまち、水上スポーツはとても斬新なアイデアでとても楽しく聞かせていただきました。実現すれば、緑区の目玉になるのではないかと感じました。
- ・“フライボード×パン食い競争”は、実現できるとおもしろい。「水」と「山」に着目した「山岳トライアスロン」はどう？
- ・相模原市外から人を呼び込むことも大事ですが、先ず相模原市民が何度も行ける環境作りが必要ではないでしょうか。
- ・相模原に道の駅を設置すればよいのではないかと。スポーツ競技会によって、地域振興的イベントは多くある。ぜひ、魅力的なイベントを広げて欲しい。
- ・相模原市は、観光の分野に課題があると思いますが、今回ご提案いただいたような、他にはない事業を展開することで相模原も観光のまちとなれば良いと感じました。
- ・水上スポーツはシーズンスポーツというイメージが強いのですが、どの様にクリアしますか？丹沢あんぱんは相模原の特産品なんですか？名前変えちゃう？
- ・観光について湖で色々なイベントを企画され若い人が入って来そうな可能性を感じました。迷路でまわっていくうちに知ってもらいファンがふえそう。

< 廃校のアミューズメントパーク化について >

- ・おばけやしきという発想がすばらしい！
- ・おばけやしきがおもしろい！いいね！
- ・子どもが減ると廃校になる学校を、若者をターゲットにしたアミューズメントパークにする、面白い発想だと思いました。
- ・色々な形で学校を大切にするというテーマが魅力的でした。おばけやしき、本当にこわそうですね。
- ・相模原市に少ないアミューズメントパークをリノベーションで実現するというアイデアに惹かれた。
- ・おばけやしき嫌い～！！怖いわ！！明るい場所でオバケやしきやってよ？笑。とても良いプレゼンでした。1人1人ちゃんと意見していて素晴らしかったです。
- ・おばけやしきの案が採用されたことがこのFWで一番うれしかった。

< サードプレイスについて >

- ・若者が無料で利用できるサードプレイスが出来ると良いですね。
- ・公共施設をサードプレイスをはじめとする心地良い場所にする視点が良かったです。
- ・子どもの城 学校の活用。しかも大切に使うというコンセプトが良いと思います。“サードプレイス”若者のたまり場って良いと思います。
- ・「さがまち」で実際に期間限定イベントでもよいのでサードプレイスをプロデュースしてほしい。
- ・若者が気軽に集まれる場（コミュニティの場）が増えると、少子化対策にもなると感じた。
- ・サードプレイスという言葉が知らなかったがおもしろい発想だと思った。いごちの良い「さがみはら」になると良いと思います。
- ・この提案を、若者である皆さんと具体的に考えていけると良いと思いました。サードプレイスを一緒につくりましょう！
- ・公共施設のリノベーションに学生が魅力を感じるにはという柔軟な発想が面白かったです。サードプレイス化できたら、新しいコミュニティの場になりそう。
- ・是非、わくわくする施設へリノベーションしてもらいたい。若い人の意見を取り入れてほしいですね。サードプレイスも大事！

< 全体の意見 >

- ・企業が入るのがいいね！
- ・学校に着目したところが良かった。
- ・とてもユニークな発想ですてきでした。
- ・学校に着目されたのがさすがですね。
- ・若者ならではのアイデアでビックリ！！実現するとイイネ！
- ・学校への愛着や思い出を大切にするという発想がとても良かったです。
- ・若者でなければ思いつかないアイデアで可能性が大きい政策だと感じた。
- ・ただ建物をとりこわしてしまうのは、なんだかなあ...、って思いますもんね。共感しました。
- ・学校をテーマパーク化してアミューズメントパークにする案は“若者ウケ”すると思いました。特にリアル脱出ゲームはやってみたい、サードプレイス化することも面白いと思うし、若者が一緒に運営することで時代の流行を適宜取り入れることが出来るのかなと思いました。
- ・「学校」という若者にも慣れ親しんだ場を地域の活性化につなげる視点は良いと思います。子どもから高齢者まで、誰もが愛着を持てる施設になるといいですね。
- ・若者が公共施設にあまり行かないことに気づき、若者が来たいと思える提案をいただき大変興味深く感じました。
- ・学校が楽しくなるイメージが出きた。「学校を大事にしている市」というシティセールスができる。
- ・公共施設のリノベーションの良い例を一つ実際に現実に作れるとその流れが一気に加速すると思う。
- ・「ありきたり」との感想がとてもステキでした。若者が考える理想の場所についもっと聞いてみたいです。
- ・課題認識まではとても共感できた。その先については、とても斬新なものだと思いました。「公共施設」というものが何かを考えることも必要かもしれません。
- ・公共施設をうまく使うことでリノベーションまちづくりの核(スタート)となる！
- ・学校をはじめ多くの施設が余っていく中、重大な課題ですが、楽しい場所にする若い人達が集まる場所にするという発想は、これまで持っていなかったと思うので大変参考になりました。
- ・市の施設はなかなかメンテナンスが行き届いていない気がしています。今回のおもしろい施設はリノベしたあとの事も実現したらと柔軟に考えたら良

いと感じました。

- ・思い出のつまった学校を有効活用するという目の付けどころが良いと思いました。
- ・廃校はマイナスのイメージがあったが今回の提案で明るい未来が想像できた。
- ・学校をリノベーションして若者向きに生まれ変わらせるという発想が斬新だ。
- ・公共施設の今後の利活用についてサードプレイス化、アミューズメントパーク化という具体的な提案があり興味深い発表だった。大学生の目線で意見が述べられていたのも良かったです。
- ・相模原市で時間に余裕のある若者は学生やインバウンド(観光客)ではないでしょうか。企業も巻き込んだ楽しみ方を期待します。

< 提案・意見 >

- ・カルチャー系の施設がほしい
- ・学生が企画をするイベントの持ちこみとかもいいですね！
- ・ぜひ民間を活用しましょう！
- ・学校を地域の「カルチャーセンター」に再編する工夫をしてほしい。
- ・インスタ映えするスポットになれば、自然と人があふれイキイキした町になるはず。
- ・アミューズメントパークへのリノベーションも楽しいですが、一過性になることはありませんか？継続させるにはどうすれば良いか？
- ・ターゲットはどこの若者？？公共施設として？？一般企業向け？？着地点が良く分からない。
- ・ターゲットとして提示されていた「若者」とは、どの世代のことを指すのか、疑問に思いました。また、流行りものは継続性が少し不安かな？と思います。全体的に面白かったです！
- ・廃校を利用した若者が集まる場所のアイデアはとても良いと思う。あわせて高齢者も参加出来る仕組みがあると良いです。
- ・これから先、色々な公共施設が老朽化、時代に合わない形になっていくと思うので、色々な施設のリノベーションをこれからも考えてみて下さい。
- ・学校(廃校)活用は基本線は良いと考えます。アミューズメントはちょっと難しい(サイクルの割にリターンがとぼしい)。サードプレイスの議論をもっと深めてもらいたい。一人で楽しめるのも大切です。
- ・若者が集まるのはとても大事ですが、少子化も進むと卒業生は若者だけではないので、若者以外にも楽しめるという視点もあると良かったです。

<アートマップについて>

- ・具体的ですばらしい！
- ・空家ポイントがいいね！
- ・スマートフォンアプリのデザイン（オリジナル）がイイネ！
- ・作品ごとの位置情報機能が面白いと思いました。
- ・アートマップに移動手段もあるといいですね
- ・非常に具体的な提案でびっくりしました。
- ・いろいろな組合せができそうですね！
- ・いまあるものを知ってもらうツールとしてICTは使えますね
- ・すぐに取り組める具体性のある内容で素晴らしいかった。
- ・美術のまちとしてのプロモーションツールをアプリとした点が良かった。
- ・ICTを活用した作品やアーティストを身近に感じるシステムが良い。
- ・まず、学生に使ってもらいイベントを開催～といった流れはイイネ！
- ・現場に行かないと分からないメイキング映像 etc は良いなと思います。
- ・アーティストが活動に専念できる環境を整えることも1つの主眼においている所が良いと思いました。相模原＝美術であるためには、アーティストにやさしいことが重要ですよね。
- ・芸術のまちの認知度向上の核がしっかりしていていいね！ARTMAP はゲートウェイ的な位置づけかなと？（開発 メンテ？）一番良かったのは「継続性」をしっかり考えているところ。一過性になりがちです。
- ・すぐにでも使えそうなアプリだと思います。市外からの観光客も呼べるし市全体の文化度もUPするステキなアイデアだと思います。
- ・ICT×芸術をARTMAPというアプリで実現する提案が魅力的であった。発表のやり方が見やすく聞きやすかったです。アプリもすぐにでもサービス化出来る内容でした。
- ・相模原＝アートのまちという機運が高まりつつある中で、ICTを活用することで効果的に芸術家と観光者、地域の活性化につながるという素晴らしい内容でした。この仕組みは、芸術以外の分野にも活用できるものと感じました。分かり易い発表・資料でした。
- ・アートマップアプリ開発については、芸術を広めるツールとしてとても良いと思います。Wifi 環境などインフラ整備と併せて実現できるとさらに良いと思います。
- ・美術のまちとしてのプロモーションツールをアプリとした点が良かった。・すぐに取り組める具体性のある内容で素晴らしい。
- ・こんなアプリがあったら最高です 皆まわってポイントをためるのもおも

- しろいな。
- ・このアプリによってアーティストのモチベーションが高まると、アーティストが有名になっても相模原に居続けてくれるような気がします
 - ・ICTから芸術に結び付ける発想が意外で面白かった。実現可能性も高いのではないかな。
 - ・アプリのプロモーション、使ってもらえる工夫がされており具体的でよかった。
 - ・「芸術」をICTを使うことにより、相模原市のシティセールスにすることができる。
 - ・芸術について興味のない方にアプリを取り入れてもらえる様な工夫がどこにあるのか気になった。まずはアーティストと興味のある人がワークショップに参加したい人を対象に、盛りあがったらよいと思いました。
 - ・ICTと芸術を掛けあわせることは、大変興味深く感じました。こうしたことで相模原に興味をもってくれる人が増えるといいなと感じました。

<全体について>

- ・Win x Win ですね。
- ・芸術という資源を生かしたまちづくりという発想がすごい！
- ・プレゼンの流れが分かりやすく聞いていて面白かった。
- ・ロジック・プレゼン共に洗練されていて、とてもステキな発表だったと思います!!
- ・プレゼンの流れが分かりやすく聞いていて面白かった。ターゲットや繋がる方法がしっかり考えられていて、さすがでした。
- ・アートを取り入れたまちづくりというのは、他にも事例はあるが、アーティストと観光客を結ぶという具体的な提案が分かりやすかったです。
- ・非常にロジカルでわかりやすいプレゼンでした。内容についても他分野の複数の問題を解決できる良いものでした。ARはとてもよいと思います。
- ・芸術のまちという新しい視点をICTでどうPRするのか具体的な説明があり、説得力があるなと思いました。
- ・プレゼンがとても素晴らしかったです。このアプリをつくるに当たり、産、学、官の協働による実現ができると良いと感じました。
- ・非常によくまとめられた発表で大変聞きやすかったです。内容も若者らしい情報通信端末も使ったもので、今後のまちづくりの大切な視点になると思います。
- ・ICTを利用するだけでなく、様々な効果を考えて提案された政策で実現性

も大きい。

- ・相模原市の強みの1つである「芸術」をICTを活用して拡散するという発想に驚かされました。若い皆さんならではの提案でした。
- ・地域活性化にもつながる取組みになると思います。ありがとうございます。
- ・とても素晴らしい提案でした。Winwinの考えが想像しやすく芸術のまち相模原の発展と制作者やお客さん側にもメリットのある魅力的な提案でした。プレゼンの内容もさることながら、即実性のある提案、プレゼンのやり方もとても良かったと思います。文化の振興の視点を盛り込んでいることと新規の顧（個）客獲得につながると思います。

< 提案・意見 >

- ・カルチャー教室。
- ・現実味は一番ありますね。イケそうなカンジが。
- ・今すぐつくってほしいです。SOS、知りませんでした。
- ・位置情報を基点としてアーティストと利用者を結びつけていくことをとてモリアルに提案出来ていました。せっかくなので、アプリの開発の前に相模原をイメージできるものを入れてみては。
- ・相模原市内の大学に通っているが、あまり、相模原市＝芸術とあまり感じません。この施策でもっと魅力的な町に広まっていったらいいなと思いました。
- ・アートとかかわるのは観光客はもとより...まず市民がかかわっている情報発信環境を作ってほしい！
- ・SOSに。また、行きたい！！1ヶ月に1回くらいのペースで開催して下さい！！！！
- ・芸術に触れる機会が増えて、自らが「アーティスト」になりたいという人を支援するシステムがあれば...
- ・これは「アートビジネス」を支えるインフラにすべき。評論家や画商を呼び込む工夫を！
- ・アプリ開発を通して広めるツールは良いと思う。もっと位置情報を利用して利用者に還元できれば、良くなっていくのではないか。
- ・アプリはすごく便利だがさがみはらが「芸術の街」として有名になっていくのは軽く違和感を覚えました。

< 実家のような家施策について >

- ・コンセプトがいいね！
- ・ポニョのような家を感じました。
- ・「縁側」は実家らしい大きな要素!!
- ・少子化×空き家の発想が良かった。
- ・実家のような場所があるといいね！
- ・「実家」のコンセプトは重要なポイント。
- ・空家対策と組み合わせたことが素晴らしいと思います。
- ・こんな「居場所」がたくさんできると良いですね。
- ・「実家」のイメージはとてもわかりやすいと思いました
- ・あったらいいな!!がつまった提案だと感じました。
- ・実家のような家。安心して子育てができると良いですね。
- ・実家のような家を実現し、すべて空家の活用案に期待します。
- ・空家対策、市民協働などの施策と組み合わせた子育て支援策???面白い。
- ・「実家のような家」というのが、とてもキャッチーだと思いました。
- ・親が休める空間を用意する視点が含まれているのが良いと思いました。
- ・空き家を対象とした実家の様な家、ユニークな提案で良かったと思います。
- ・元気なおじいちゃんやおばあちゃんの”いきがい”にもなりそうですね。
- ・(子育て支援)(空き家問題)(地域の就労支援)これらを同時解決!
- ・実家のような家、空き家の活用、24時間開放という点がすばらしい。
- ・「実家のような家」地域のおじいちゃんが運営者になっても良いと思いました!
- ・クリアすべき課題はたくさんあると思いますが、提案のような実家のような家が作られたら素晴らしいと思いました。
- ・”実家のような家””和室”へのこだわりは、日本らしくコミュニティを大切にするのでとても良いと思います!
- ・実家風、24h対応、空き家活用、中学校区など、とても参考になる内容でした。身近な所で、地域で子どもを育てる、子どもを大切にすることが求められていると感じました。
- ・実家のような、空き家利用、24時間ok、素晴らしいと思います。24時間運営を担保できるか(運営者、セキュリティ、財源etc)。
- ・24時間運営、いいアイデアだと思います。夜中に不安な気持ちになったときに、相談できる相手がいると安心。
- ・24時間、子どもと実家のような場所ですごせるには、近くに実家がない人にとって、うれしいと思う。

- ・ 24時間空いているのは魅力的、夜行っても、誰かが話を聞いてくれるだけでも、気分が楽になりそう。
- ・ 実家のようにくつろげる空間で誰でも行きやすい場であれば、運営側にも地域の人達や若い人達が参加しやすく、地域のコミュニケーションの拠点になるのではと思いました。
- ・ "空間利用"という着眼点が良いと思います！高齢者の人材活用にも良いアイデアだと思います。
- ・ 空家まで考えが及んだのはとてもよいと思います。複数の問題を組み合わせるとはとても重要、あとは周知ですね。
- ・ 不安を相談できる場の提供がより増えると良いと思う。(インプット/アウトプットの場にも)
- ・ 実家のような家 good！空家対策、運営者は地域のおばあちゃん、中学校と同数37校、和家の活用、縁側、ちゃぶ台、いいね！
- ・ 24時間で利用できる体制が実現できれば、子育て世代にはとてもありがたい、継続して利用したくなると思います。運営者も子育て経験者ということで、安心して子どもを預けられると感じました。
- ・ 少子化対策に向けての具体的な対策があげられていたのが良かったです。空家を活用する点も良かったです。
- ・ 子育て世代の要望を活かした実家のような家を作るというコミュニティ的な発想がとてもよかった。また、親も子もそれぞれにくつろげる場所を作っていくというところもよかった。
- ・ 母親としては、寝れるのが嬉しいと思います。子どもとしてもコミュニティができて、定住傾向が強くなってとてもいいと思います。
- ・ 実際にママさんたちの意見を聞いているのがとてもいいと思いました。提案に対するママさんの意見も聞いてみたいと思いました。

< 発表全体について >

- ・ ニーズ調査がしっかりしており、これから必要となる対策だと思った
- ・ 少子化と空き家、社会が抱える大きな課題を結びつけたテーマは、とても興味深いものでした。
- ・ 子育てをするのに、悩みも相談できないという話を聞きます。今回提案いただいた内容は、気軽に相談ができる場として大変良いと思いました。
- ・ 良いアイデア、良い視点がたくさん詰まった発表でした。1番伝えたかったことがもっと分かった、より良いプレゼンになると思います。

< 意見・提案 >

- ・地域に任せすぎると、人間関係が心配。
- ・なぜ中学校数？小学校くらいあっても・・・
- ・中学の 37 校とあったが、地域の公民館との違いは??
- ・継続して、具体的な地域を絞って、シュミレーションしてみてもどうか!
- ・犬や猫などの動物をとり入れて、家族感を出してみても。
- ・子育て以前に、結婚しない女性が多いことは問題でないでしょうか。女子大では結婚に関する勉強をしているのでしょうか。
- ・子育て支援と空き家対策という、2 つの課題を一度に解決できる提案でした。運営者のおじいちゃんも仲間に入れてほしいな～。
- ・この事業は「人」をどう手当てするかがポイント。ボランティアでは回らない。市に事業化してもらいましょう。
- ・実現に向けて、市がどの様な支援をすることが効果的か提案があるともっと素晴らしい。
- ・出産率の低下はコミュニティ不足、施設の不足が主因でしょうか?他にも原因があると思いますが。
- ・子ども産みたいけどな・・・。制度が難そうだしお金かかりそう・・・。不安がいっぱい!!!!
- ・市内には子どもセンターや児童館が充実していると感じて子育てをしてきました。施設を増やすことで、問題解決になるか。どの程度、考えていますか?現在ある子育て広場の人材も不足していますが、その対応策は?

7 まとめ 閉会

閉会に際して、学生代表が発表会の感想及び感謝を述べ閉会した。学生の感想については以下のとおり。

正直、大学生の考えた企画なんてただの参考程度だろうと感じていたが、発表してみると、すごく真剣に聞き、質問をしに来てくれた大人の人々を見て、本気で考えてくれていることを知れたし、私たちの企画が実現に近づければ嬉しいと思う。

いい企画が他にももっと出ていたので、報道陣が居ればもっと良かったと思った。

大勢の人の前で発表するのはとても緊張しましたが、意見交換会で、多くの方とお話ししたり、「すごく良い案だね」など言って下さり、より深いお話を聞くことが出来て、やってよかったなと思いました。

フィールドワークを通して、相模原をより身近に感じる事が出来て良かったと思います。

企画の段階でアイデアを出し合ってお互いに付け加えながらいいものが出るようにしていくことを学びました。自分の意見を言えるようになったと思います。

「市」というとても大きな規模が絡んでいるということもあって何度も挫折しそうだったが、市の皆さんと仲間たちと一緒に、それぞれの観点から話し合いを重ねていくことで、自分の視野も広がり考え方も変わった気がする。最終的にはやってよかった、頑張ってたかったと思えるフィールドワークだった。

参加前と参加後で、自分の興味が持てる分野が増えた。

すぐに取り掛かれる施策ではなく、ここに行き着いたプロセスを発表することで、本当にあったらいいななどたくさんの共感を得られたのは嬉しかった。

自分たちの伝えたいことを伝えることが出来て嬉しかったです。発表したり、意見をいただくことで、どのように、そこから何を感じてもらえたか分かることが出来ましたし、内輪で終わることなく、足りない部分など、発展して、内容について考える機会を得ることが出来ました。

実感することの大切さを感じました。実際に体験したり、その場に行くことで、人に伝わるプレゼンになるのだなと思いました。

ネットの情報だけでは得られない問題となる現状をしっかりと自分の目で見れたことで、素直な生な声、意見、発想を得ることが出来た。

さがみはらという地域の特徴、それぞれの問題がわかりました。身近な地域が今どういう状況であるのか知っておくことは非常に大切なことだと思いました。そしてそれらの問題点はどこかしらに共通点があり、1つ解決すれば他の問題にも何らかの良い動きが起こるような連鎖があるのではと感じました。

<まとめの様子>



<終了後の記念写真>



発表資料

< 緑区観光施策グループ 発表資料 >

観光客増加を目的とした 地域資源の発掘・再発見

さがまち 学生Club
緑区観光班

『緑区に目玉をつくる政策』

宮ヶ瀬湖や相模湖に FW取材に行つて...



「緑区の特徴」

- ◎目玉がない
- ◎緑が多い(自然がすごい)
- ◎淋しい感じ
- ◎湖が広い

「緑区の特徴」

◎車でアクセスが良いのに観光客少ない



首都圏中央連絡自動車道(圏央道)
相模原インターチェンジ

中央自動車道
相模湖インターチェンジ
相模湖東インターチェンジ

<http://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/area/sumo-midori/access/index.html>

・相模原市の入込観光客数年次別推移

区分	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
延観光客数	11,744	11,019	13,767	12,589	12,576
宿泊客数	587	635	647	673	694
日帰り客数	11,156	10,384	13,120	11,916	11,883

<http://www.pref.kanagawa.jp>

ターゲットは・・・

都心に住んでいる
車を使う家族連れ

理由は？

- ・家族連れなら車持ちが多いのでは？
- ・車で気軽に来れる距離なのでは？



施策案①

緑区 × 迷える町

施策案②

緑区 × 水上スポーツ × 湖

施策案① 緑区 × 迷える町

《香川県小豆島》

古くからの入り組んだ路地が残る、全国的にも珍しい場所で、路地を歩きながらアート巡りを楽しめる。



アートプロジェクトチーム

「MeiPAM(メイパム)」

古い建物を活かしながら、
アートギャラリーやカフェ、ショップを運営し、
島の賑わいを作り出す試みをしている。

謎解き × アートギャラリー



島メシ家



島モノ家



事例を踏まえて...

- ・相模原市で活動しているアーティストとコラボして町にアートを取り入れた迷える町に！
- ・地域の食材を取り入れたご飯屋さんをつくる！
- ・地域の特産品やそこでしか買えないお土産などを取り揃えた店を展開！

施策案② 緑区×水上スポーツ×湖

「施策案②水上スポーツ×湖」

図表 スポーツ産業の市場規模の拡大目標

主な政策分野	主な増要因	2012年	2025年	拡大幅
スタジアム・アリーナ	収益性の高いスタジアムを核にした街づくり	2.1	3.8	+1.7
アマチュアスポーツ	大学スポーツやアマチュアスポーツ大会の収益拡大	-	0.3	+0.3
プロスポーツ	観戦客数増加など興行収益拡大	0.3	1.1	+0.8
周辺産業	スポーツ資源を国内外に発信し、スポーツツーリズムを推進	1.4	4.9	+3.5
IoT活用	IoTの導入や施設・サービスのIT化進展	-	1.1	+1.1
スポーツ用品	スポーツ実施率向上策、健康経営促進	1.7	3.9	+2.2
		5.5	15.2	+9.7

<https://www.nissay.co.jp/enjoy/keizai/78.html>

水上スポーツの種類

ウェイクサーフィン



SUP



カヌー

ウォーターバルーン



フライボード



水上スキー

競技人口

水上スキー競技人口
世界1200万人
国内 ウェイクボードも含め
30万人程度
女性の比率が高い 8対2

湖の利点

- ・波に左右されない
- ・アクセスしやすい(新宿から車で30分、高速からのアクセスは◎)
- ・四季折々の景色が楽しみやすい
- ・道具が錆びにくい

- “元オリンピック開催地
（1964年、カヌー）”
- オリンピックボート選手団のキャンプ地に。



具体案①

湖で水上スポーツ大会

具体案②

水上スポーツ×運動会

相模原で活動しているアーティストの方がデザインしたウォーターバルーンを利用



ウォーターバルーン

玉転がし



<http://waterwalk.net/%E6%B0%B4%E4%B8%8A%E6%AD%A9%E8%A3%BC/>

丹沢あんぱん



フライボード



パン食い競争



緑区の特産品のゆず
(規格外品を活用)



SUP



玉入れ



最後に...

この政策を実現すると...

知名度UP



観光客増加



地域活性化



ご清聴ありがとうございました！



< 公共施設施策グループ 発表資料 >

将来を見据えた
公共施設のあり方
～楽しい場所を作って
楽しいまちに～

公共チーム

相模原を
楽しいまちに
したい！

楽しいまちには
楽しい場所がある

例えば、

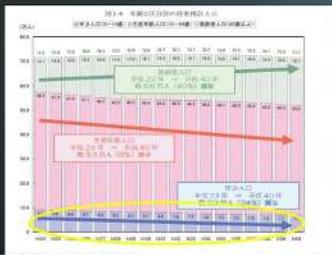


それなら、
相模原では

学校を新たな
楽しい場所に
変身させる

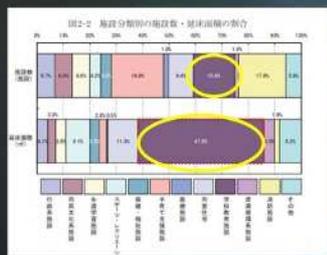
なんで学校？

資料を見て



出典：相模原市公共施設白書
H24年3月

子供が減っていく



出典：相模原市公共施設白書
H24年3月

しかし
学校の数が多い

つまり
廃校が増えていく

だけど
学校には思い出が
詰まっている

大切な学校を
残すために

学校を
楽しいまちの起点
に！！

と、ということで...

私達が考えた

政策

は、

いまある学校を
若者が集まるように
リノベーションする
政策

ターゲットは？

もちろん

ターゲット

若者

ねらいは？

ねらい①

住民にとって愛着のある
学校 を変身させる

ねらい②

若者に相模原の

魅力、特色

を感じてもらう

方針は決まったけど
「わからない」ばかり

それじゃあ

もっと
調べてみよう！

フィールドワーク

フィールドワーク
リノベーションの
事例を見学しに



アーツ千代田3331



CASICA



フィールドワーク
リノベーション
ってすごく自由！

フィールドワーク
建物を
生まれ変わらせて
使うっていいな！

フィールドワーク
次は
相模原市の公共施設
の現状を知るために



青少年学習センター



相模原市立図書館

考えていたよりも
老朽化
が深刻

フィールドワーク



全体的に
なんか暗い

フィールドワーク



相模原にも
リノベーションした
施設がある

フィールドワーク

相武台公民館

フィールドワーク



リノベーション
なのに
ありきたり

フィールドワーク



若い人が
なかなか来ない

フィールドワーク

若者に話を
聞いてみたら

フィールドワーク

使いたいと
思うものがない

フィールドワーク

こんなのは
どうだろう!?

2つの方向性

2つの方向性

- ①アミューズメントパーク化
- ②サードプレイスをつくる

案①

アミューズメント
パーク化

アミューズメントパーク化

非日常を
楽しみたい
若者

アミューズメントパーク化

企業に貸し出して
運営してもらう

アミューズメントパーク化

リアル
脱出ゲーム

リアル脱出ゲームって？



	⑤		③
	①		②
③ ② ① ⑤			

	ン		コ
フィリピン		チェコ	
	バ		ク
バングラデシュ		ウクライナ	
コクバン			

イメージは

脱出ゲーム



脱出ゲーム

長い時間かけるものや
短時間でできるもの
など沢山のルートを用意する

脱出ゲーム

学校にある備品を
活用する



アミューズメントパーク化

おばけやしき

おばけやしき

廃校になる時に友人と
タイムカプセルを
思い出の教室に
置いてきた

おばけやしき

学校の取り壊しが
決まったと
いう話を聞いた

おばけやしき

タイムカプセルについ
て思い出したあなたは
取りに行こうとする…

おばけやしき

校舎全体を使った
探索型
おばけやしき

アミューズメントパーク化

行ってみたい
と思ってもらえる

案②

サードプレイス
(心地のよい場所)
をつくる



サード
プレイス
って何？

サードプレイス化

相模原市と若者たち
で運営していく

サードプレイス化

家のようにくつろげる
スペースに

サードプレイス化

地域の若者の
理想の部屋



サードプレイス化

ゲームや飲食が
気軽にできる

サードプレイス化

一人でも
大勢でも
気にならない

サードプレイス化

何回も行きたいと
思ってもらえる

この政策が、
実現したら？

実現したら

いろいろな人が集まる
楽しいまちになる

実現したら

相模原市は
色々な形で学校を
大切にするという
魅力ができる

ご清聴
ありがとうございました

< ICT 施策グループ 発表資料 >

芸術×ICTで相模原市を
盛り上げるサービス

まがもち学生クラブ ICT部

概要

1. ICT
2. 芸術
3. 目的
4. ターゲット
5. FW
6. 解決策
7. アートマップ
8. 結論

ICT
情報通信技術



ICT
(情報通信技術)

SNS、ブログ、動画投稿サイトなど、
双方向のコミュニケーション機能を
有するソーシャルメディアの利用率も、
※ 平成25年の約42%から
平成27年には約49%に
増加している

※ 相模原市では平成25年度調査より、
<http://www.city.sagamihara.lg.jp/iryo/ict/ict-fact-book/page/00000001.pdf>

スマート
ICT
アプリ

ICT × ? × 相模原

=

地域活性化に繋がる

市外からも注目される

住民も楽しめる

今あるもの

相模原市にしかないもの

あまり知られていないもの

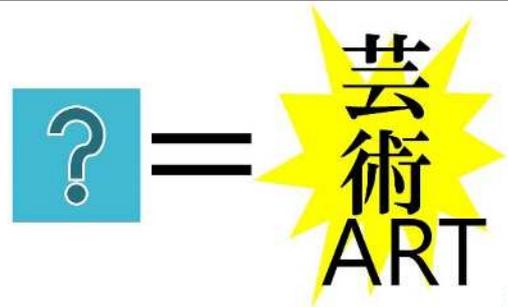
相模原市 藤野地区は
芸術家が多く住み
アートがあふれる
大きな可能性を秘めた地域

相模湖は

A & A
アスレチック アート

アド街ック天国より

- ✓ 相模原市にはアトリエが多い
- ✓ 沢山のアーティストが暮らしている
- ✓ 芸術系・美術系の大学が多い



テーマ

芸術 × ICT
で相模原市を
盛り上げるサービス

目的

ICTを使用したサービスで
相模原市にある
アート施設を
盛り上げる

ターゲット
①

観光客

ターゲット
②

相模原市内で活動する
アーティスト

なぜ？
観光客

- ・芸術の街として広めたい
- ・芸術を楽しむきっかけ
- ・SNSで全国に拡散
- ・地域活性化につながる

なぜ？
アーティスト

- ・アトリエが沢山ある
- ・活動に専念できる環境を整えたい



アーティスト と 観光客

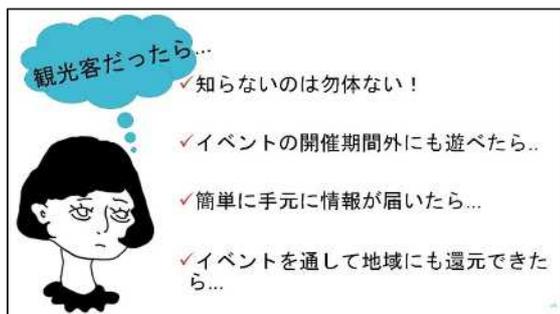
両者に良いこと尽くしな芸術の街



- 良い点
- 学生と協力して運営
 - 若手アーティストの人材育成
 - 幅広い年齢層に向けてWSを開催



- 良い点
- アーティストとお客様が触れ合える
 - 年に一度の貴重な経験
 - 遠方からの訪問客も多い



- アーティストだったら...
- ✓ 大学を卒業したら制作場所を探すのが大変そう...
 - ✓ お客さんの意見が聞けたら制作意欲も増す気がする...

- 以上の事から
- 情報伝達ツールの発達
 - ICTの双方向性を利用した宣伝
 - 場所の提供
 - 市一丸となってイベントを盛り上げる

解決策

アートマップ



アプリ
アートマップ
とは...

- 相模原市内にある芸術作品の紹介 (位置情報活用)
- イベントやワークショップの告知
- 活動場の空き情報共有

使われ続けている人気アプリの特徴

アプリ調査

- ① 常に更新されている、アプリを開くといつも新しい情報が得ることができる
- ② 使い続けると得をする
- ③ 双方向性

使うことでお得になる

情報の発信者にも受信者にもなる

いつ開いても新しい

アートマップ 使い方

ART MAPの機能

- ① 作品サーチ機能
- ② 概要・レビュー機能
- ③ 投稿機能(1)
- ④ 投稿機能(2)
- ⑤ 投稿機能(3)
- ⑥ 位置情報機能

① 作品サーチ機能

所在地にピン が立っていて
一目で場所がわかる

- ・ 美術館やアトリエの所在地情報
- ・ 町中アートの所在地情報
- ・ イベントの開催地

① 作品サーチ機能

作品名・住所から
目当ての作品の所在地がわかる

- 美術館やアトリエの所在地情報
- 町中アートの所在地情報
- イベントの開催地



ART MAPの機能

- ① 作品サーチ機能
- ② 概要・レビュー機能
- ③ 投稿機能(1)
- ④ 投稿機能(2)
- ⑤ 投稿機能(3)
- ⑥ 位置情報機能



② 詳細・レビュー機能

ピンをクリックすると
ページが移動し、
情報とレビューが表示
(③投稿機能で詳しく説明)




主要情報 →

アートラボはしもと
〒860-0802 相模原市中央区大井町1-4-3
電話番号 030-202-0000
受付時間 10:00~19:00
休館日 月曜日・祭日・年末年始
開館時間 10:00~19:00

← レビュー



ART MAPの機能

- ① 作品サーチ機能
- ② 概要・レビュー機能
- ③ 投稿機能(1)
- ④ 投稿機能(2)
- ⑤ 投稿機能(3)
- ⑥ 位置情報機能



③ 投稿機能(1)

アプリユーザーによる、
レビュー・写真投稿

- 投稿者にはポイントを支給する
- ポイントを貯めればプレゼントが貰える



③ 投稿機能(1)つづき

- 投稿は端末があれば気軽にできる
- 貯まったポイントは、美術館の割引券や相模原市内で使える商品券などに交換



④ 投稿機能(2)

アーティストによる
情報発信・告知

マップに反映できる

同様に投稿が可能

個人アトリエ
憩いの場
相模原市大井町55-602

Information
TEL: 1000000
TEL: 0300000
TEL: 0300000
TEL: 0300000
TEL: 0300000

Comment
今日は、イベント開催による
混雑が予想されます。ご了承ください。



⑤ 投稿機能(3)

空きスタジオ
制作場所
展示場所
の紹介

空き家の
リノベーションにも！
制作場所に困っている、
若手アーティストにも！



ART MAPの機能



- ① 作品サーチ機能
- ② 概要・レビュー機能
- ③ 投稿機能(1)
- ④ 投稿機能(2)
- ⑤ 投稿機能(3)
- ⑥ 位置情報機能

⑥位置情報機能

キャプションや音声ガイドに代わるツール



その場で作品にかざすと、メイキング映像やアーティストからのコメントを鑑賞できる

機能の説明は以上です

周知方法

- ・芸術系の大学生に使ってもらう
- ・アーティストに使用してもらう
- ・大きなイベント開催時に使用する
- ・SNS広告

長々と説明をして参りましたが



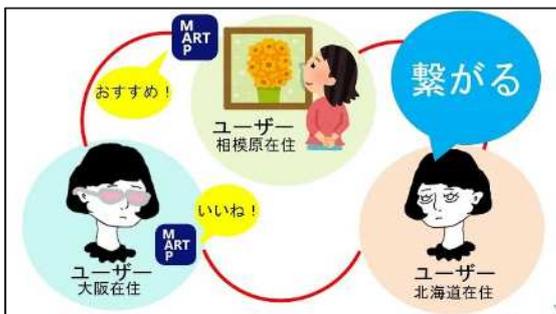
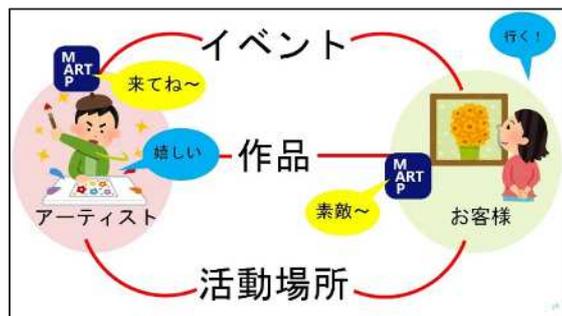
アートマップ

を使用すると

- ・全国に相模原市が芸術の街として知名度が上がる
- ・多くの人が相模原市を訪れる
- ・アーティストが制作活動に専念できる環境を提供できる

結論

- ・アーティストにも鑑賞者にも良いこと尽くし
- ・アプリを通して繋がりができる
- ・地域活性化にもつながる



WIN WIN

両者に良いな芸術の街

<子育て施策グループ 発表資料>

まとめ

相模原市の芸術分野における知名度が低い

↓

ICTを通してより多くの人に認知してもらう必要がある

↓

アートマップを使うことで課題を解決することができる

ご清聴
ありがとうございます
ございました

**少子化ストップ！
実家増殖計画**

さがまち学生クラブ
(子育て班)

合計特殊出生率※(2015年)

相模原市	1.25人
全国平均	1.46人
神奈川県平均	1.33人

※1人の女性が一生のうちに産む子供の数に相当する人数

出産・子育ての課題

- 産科診療の医師不足
- 核家族化
- 地域コミュニティの希薄化
- 共働き世代の増加

●子育てのために充実してほしいサービス (1つ選択)

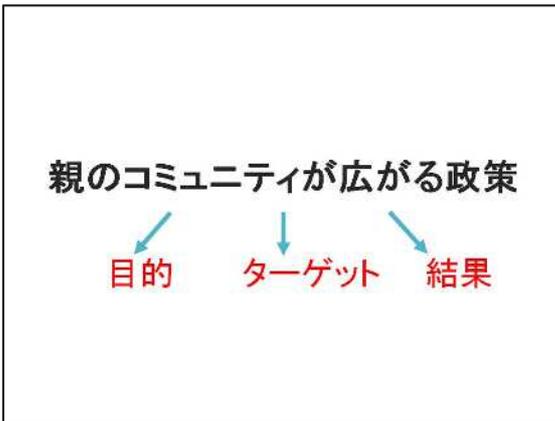
サービス	割合 (%)
普段、保育園を利用していない子どもでも、親の都合などで一時的に利用できる保育サービス	45
子育ての手助けを受けたい人で行いたい人を結びつける相互援助サービス	20
育児を行う親が、保育園などで専門のスタッフと相談を行える場の提供	15
子育てをしている親や子が交流し、育児力を高めあうグループへの支援	12
ボランティア等による親子の交流の場の充実	8
子育て支援の講演会や講座の開催	5
その他	3
無回答	2

【出典】新しい総合計画策定のための市民アンケート

子育てのために充実してほしいサービス
(最も多かった意見)

普段、保育園を利用していない子どもでも、親の都合などで**一時的に利用**できる**保育サービス**

市民が安心して結婚・出産・子育てができるよう継続的な支援を目指している



本政策の**目的**は...

定住してもらい、
2人目・3人目を
育てたくなる
街づくり



本政策の**ターゲット**は...

3歳以下のお子様がいる親



目的を**達成**すると...

不安や情報を共有し、
子育てに対してプラスに考えて
いける



FW取材に行って...

今はご近所付き合いが少ない
と聞いた



FW先は...

「子育て広場 緑のおうち」

- 平日10:00～15:00
- 無料
- 3歳くらいまでのお子さんと保護者、
妊婦さんが対象

いいな！と思ったところ

- 見える範囲に子供がいる
- 子育てに関する情報が
共有できる
- 事前予約なしで利用できる

「緑のおうち」利用者の声

- 初めての子育て、何が分からないのかわからない
- 産む前は楽しみの方が大きかった
- イベントに行きづらい
- 子育ての息抜きが欲しい

・・・etc

特に印象に残った声(要望)

- 利用時間を長くしてほしい
- 子どもが徒歩で行きやすい近さにほしい
- いつでも食事ができたらいい

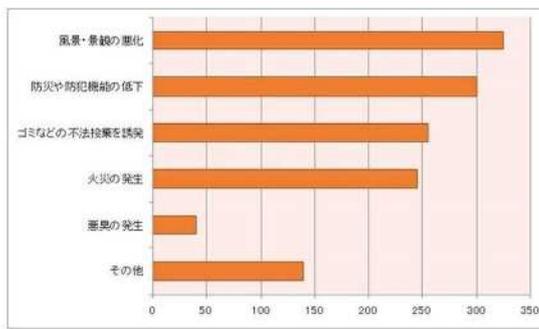
私たちの考える施策案

親子で使える
コミュニティーの場を
複数つくる

実家のような家



空き家の実態



相模原市の空き家率

平成10年	9.9% (24310戸)
平成15年	8.8% (23250戸)
平成20年	10.4% (33540戸)
平成25年	10.6% (35920戸)

「実家のような家」のイメージ

- 和室
- 縁側と庭
- 子供はのびのび遊ぶ
- 親はくつろぐ
- 四季の行事を体験
- 思い出作り



提案内容

時間



24時間開放

提案内容

運営者


子育てを終えた世代
と
地域のおばあちゃん

提案内容

個数


中学校と同じ規模(37校)

子供用和室

- ツミキ、ブロック遊び
- 絵本
- お絵描き
- 大人が常にいる



親用和室

- 布団で寝れる
- カーテンで区切られている
- 親向けや女性向けのイベント
 - ・ハーバリウム、大人のぬり絵
 - ・子どもの歯磨き
- 子育ての情報を集めた本棚



居間

- 大きなちゃぶ台
- 飲食自由
- 台所隣接



実家風であることのメリット

- 気を遣わない
- 時間に追われずにゆっくり過ごせる
- 思い出が作れる



最後に・・・

相模原市で


2人目、3人目も育てたくなり、
地元愛が生まれ、
少子化対策につながる



ご清聴ありがとうございました。